

1 化学物質がもたらす健康被害

●大量に使われる化学物質

近年の住まいづくりでは化学物質が大量に使われています。土台や柱など主要な構造材に染み込ませた防蟻剤、防腐剤、合板を製造する際に使われる接着剤、室内のクロスを貼るための接着剤、樹脂製の建材を造るために使われる可塑剤などには、成分としてさまざまな化学物質が使われています。

こうした化学物質は少しずつ室内に放散されますので人体がそれらにさらされることになります。そして、なかには人体に有害な物質もあります。もちろん、放散される量はごくわずかです。しかし、わずかでも有害な物質は健康被害を引き起こす可能性があります。

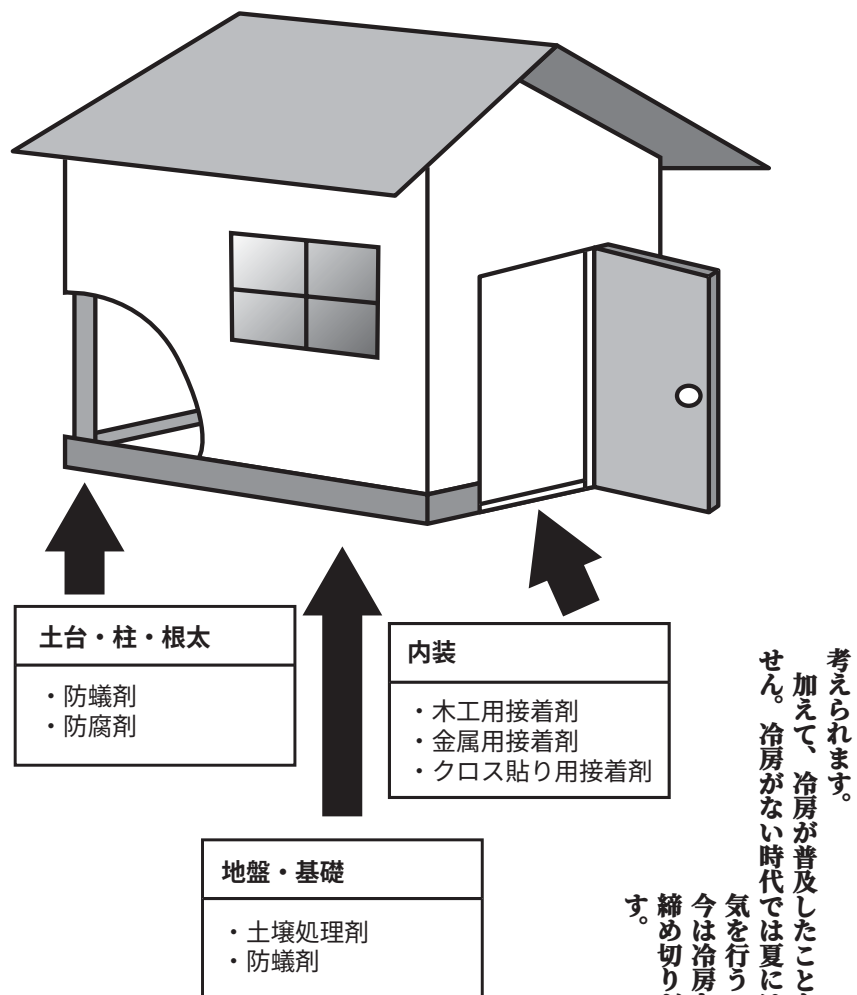
特に抵抗力が弱い幼児や、大人でも化学物質に敏感な人にとっては、これらの有害物質は要注意です。時には、体全体に湿疹が出る、呼吸器障害を起こすといった重大な症状まで引き起こすことがあります。

●住まいの変化が病気を助長

化学物質が大量に使われるようになったのと同時に、住まいの構造や暮らし方が変化したことも不健康な環境をつくり出す結果につながっています。構造に関する大きな変化は気密化です。

昔の日本の住まいは夏を快適に暮らすために、風通しの良さを第一に考えていました。建具の密閉度も低く、締め切っても隙間風が通る住まいでした。しかし今の住まいは違います。しっかりとした構造にするため、コンクリート造の共同住宅が増加し、木造住宅もツーバイフォーのように構造用合板を使うものが増えています。

また、隙間風の防止や防火のために、アルミサッシがすっかり定着しています。これらはすべて住宅全般の気密化に、一役も二役も買っているのです。こうした建物の全体的な気密化が、室内に放散された化学物質を長く滞留させる結果となり、健康被害が発生してしまつたと



考えられます。加えて、冷房が普及したことも原因の一つかもしれません。冷房がない時代では夏には窓を開放し、通風・換気を行うのが当たり前でしたが、今は冷房をするため、夏でも窓は締め切りがちで、換気が不足します。

2

カビ・ダニが病気を招く

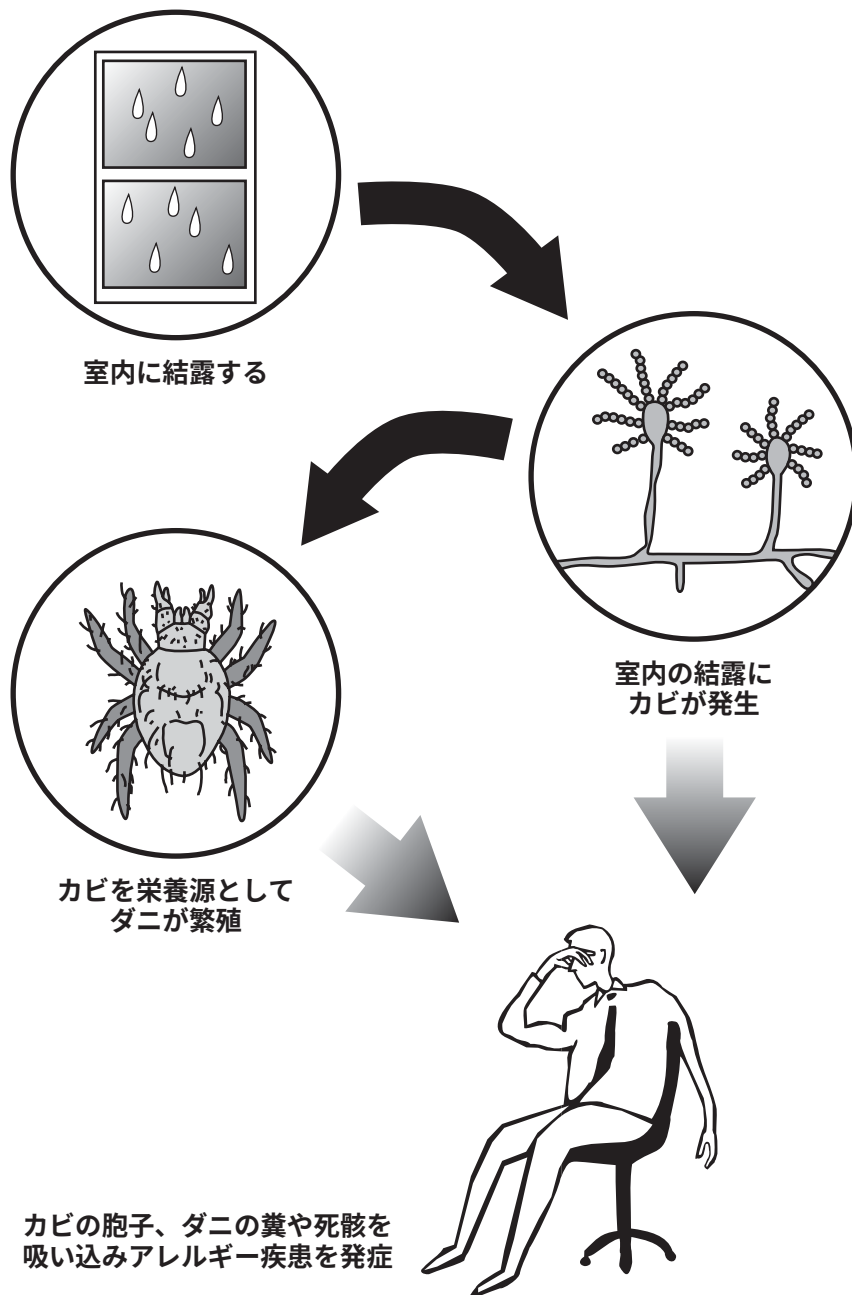
●アレルギー性疾患を招くカビ

高温多湿な日本はカビが繁殖しやすい気候風土です。特に梅雨時は「カビが付きもの」と考えられてきました。しかし、最近では年間を通してカビが発生する可能性が高まっています。冬場でも室内に結露を起こすことが多くなり、その結露がカビの温床になるからです。冬の結露の原因としては①建物の気密化、②壁や窓（ガラスやサッシ）の断熱化の遅れ、③開放型ストーブ（廃氣に多量の水蒸氣が含まれる）の使用などが考えられます。カビがひき起こす病氣のなかで最も関心が寄せられているのは、ぜん息や鼻炎などのアレルギー疾患です。室内に繁殖したカビが胞子を飛ばし、それを大量に吸い込むことでアレルギー疾患が引き起こされることが知られています。近年、幼児のぜん息が増えていることが報告されていますが、その原因の一つとしてカビの害が指摘されています。

●ダニ繁殖の源はカビ

カビの害は、胞子を吸い込むことによってアレルギー疾患を起こすだけではありません。カビが温床となってダニが繁殖することも問題です。ダニの被害は二通りあります。一つ目はダニに食われて痒い思いをし、皮膚炎などを起こす直接的な被害です。二つ目はダニの糞や死骸を吸い込むことによって引き起こされるアレルギー疾患です。その症状としては、ぜん息、鼻炎、結膜炎などが挙げられます。とくに小児ぜん息については、その大半の原因がダニではないかと考えられています。被害として後者が深刻であることは言うまでもありません。健康的な住まいを実現するには、「結露を起こす」「カビが発生する」「ダニが繁殖する」という連鎖を起こさないようにすることが大切です。そのためには、①窓などの断熱化、②水蒸氣を放出しない暖房器具の使用、③換氣の励行、④ていねいな掃除が重要となります。

結露が不健康な環境の源に



3 劣悪な温度環境がもたらす不健康

●ヒートショックが生む脳卒中

夏は暑く、冬は冷え込み、暖冷房の使用時は部屋ごとの温度差が大きい……。そうした温度環境の点で問題がある住まいは、快適と言えないどころか、健康を損なう恐れすらあります。特に恐ろしいのは、冬場のヒートショックによって、命に関わるトラブルを起こす可能性があることです。

ヒートショックとは急激な温度変化が身体に及ぼす影響のことです。暖房を施した暖かい居間から暖房のない廊下に出たときや、脱衣室で衣類を脱いで寒い浴室に入ったときには、急激な温度低下によって血管が一気に収縮し、血圧が急上昇します。

若く健康な人であれば、かなりの温度変化にも耐えられますが、高齢者や循環器系の持病を抱えている人には大変に危険です。血圧の急上昇が脳卒中や心筋梗塞といった深刻な事態につながりやすいからです。

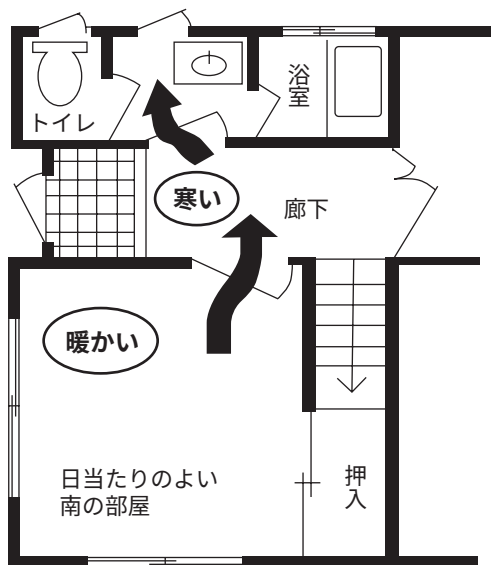
●壁の断熱性が悪いと結露を起こす

温度環境の点で問題がある住まいとは、断熱性の低い住まいでもあります。そうした住まいで起きやすいのが冬場の結露です。壁の断熱性が低いために、室内側の壁表面の温度が下がり、そこに暖房している室内などの暖かく湿った空気が触れて結露が起きるのです。また、部屋間の温度差がとて大きい場合にも、間仕切り壁の暖かい部屋側で結露を起こすことがあります。

結露は壁紙に染みを付けるなど、内装を傷めるばかりではありません。先に紹介したように、結露した部分にカビが発生し、そのカビを温床としてダニが繁殖しやすくなります。カビの胞子、ダニの糞あるいは死骸などを大量に吸い込むことで、ぜん息などさまざまなアレルギー症状を引き起こされることがあります。

このように温熱環境の劣悪な住まいは、健康被害を生む可能性を秘めているのです。

●冬のヒートショック



●北側の部屋に結露が発生する

